



👐 さよなら原発 👐
GOODBYE NUKES

いのち
つながるすべての生命のために

311いのちのわ

●3月12日 ●大分市若草公園 ●主催/311いのちのわ さよなら原発おおいた実行委員会 ●協賛団体/グリーンコープ生協おおいた他、10団体



おおいたの理事長 宇都宮陽子さん（写真中央）は、「伊方原発をとめる大分裁判の会」の応援団共同代表を務める

リズムカルな音楽に合わせて、原発は要らないと訴えながら繁華街をパレード



グリーンコープでんきの説明をする職員

2011年の東日本大震災以降6回目となる「311いのちのわ」が大分市の繁華街にある公園で開催された。「いのちのわ」の「わ」に込められた意味は、平和の「和」・繋がる「輪」・循環していく「環」。福島第一原発事故による悲惨な現状を忘れ、人の生命を軽視したかのような国の原発再稼働政策を、多くの人に知ってもらいたいという思いが溢れる集会だった。

約40団体が出店したレインボーマルシェでは、グリーンコープ生協おおいたも、「伊方原発差止訴訟の公正な裁判を要請する署名」のブースを置いた。グリーンコープでんきをアピールするために職員も参加し、元氣くんも登場。ファイバーリサイクル市や組合員10人による産直たまごの地獄蒸しや焼き芋の販売も行った。参加した組合員の中には、「組合員になって3

年目で、原発のことも電気のこともよく分からない。今日は知りたいと思って娘たちを連れて参加しました」と言う人も。グリーンコープでんきのブースには時折説明を聞きに来る参加者もいて、「何人かでも関心を持つた人は説明を聞いてくれます。少しずつの積み重ねなんです」とおおいた理事長の宇都宮陽子さんが地道な取り組みの様子を語った。

午後にはステージでの集会がスタート。「伊方原発をとめる大分裁判の会」の代表で、この集会の実行委員長でもある医師の松本文六さんは、「原発を続けることは国民に生命を捨てると言っているのに等しい。放射能による健康被害が確実に増えている。それを明らかにしないといけない」と、生命にかかわる医師としての憤りを訴えた。大分弁護団の弁護士岡村正

淳さんは、「署名が4万筆集まっている。原発を止める訴訟に大切なのは世論だ。福井地裁の判決に代表されるように、3・11以降司法の判断は変わってきている。世論を大きくし、他県の動きとも連動して訴訟を闘い、『運転差し止め』を勝ち取りたい」と訴えた。さまざまにアピールでは「原発を続ける意義はない。大分の海の方こうにある四国の伊方原発を止めよう」と、子どもたちのために今、何としても止めたいという母親の思いを訴えた。

「国民のいのちと暮らしを破壊する原発をただちに止めるために行動する」と大会宣言を読み上げた宇都宮さんの力強い声は、参加した400人の人々の心に届いた。集会後、たくさんの子どもたちも加わって、原発をなくしたいという思いを道行く人に訴えながら大分市の繁華街をパレードした。